TTC 山行実施記録表（提案）

2013 年 8 月 11 日　報告者：稲生俊雄(1/2)

山行名	北ア　常念岳・蝶ヶ岳　[2857/2677m　長野県]
実施日	2013 年7月 27 日（土）～29 日（月）　2 泊 3 日　（往路:ﾏｲｶ/帰路：公共利用）
天候／参加人員	天候 ： 7/27 雨のち晴れ、7/28 晴れ時々雨、7/29 雨　レベル ： ★★☆　参加4名
ﾊﾟｰﾃｨｽﾀｯﾌ	CL/計画/写真：、SL：、会計：、救護：、ﾄﾞﾗｲﾊﾞ＆車両提供(往路)：　スタッフ名削除
参加メンバー	参加者名削除　（ 以上男性 3 名、女性1名）
費用 一人当たり： 38,800 円 ｶﾝﾊﾟ金 170 円	内訳： 〔往路〕ドライバー謝礼：18,000 円+早朝 4,000 円+距離 1,000 円＝23,000 円 車両使用料：10×450km=4,500 円　燃料費：150 円×450km/5km =13,500 円 高速代：6,150 円(相模湖～安曇野：往路 2,050 円+帰路 4,100 円)　合計：47,150 円 〔復路〕上高地⇒新島々⇒松本（バス・電車：2,400×4=9,600 円） 松本⇒八王子（JR 特急：¥6,070×4 = 24,280 円） 〔山小屋〕常念小屋：9,500×4＝38,000　蝶が岳ヒュッテ：9,000×4＝36,000 円 支出合計：155,030 円 集金 38,800 円×4 名＝155,200　差額 170 円を TTC ｶﾝﾊﾟ金とする。

	歩行時間			休憩時間			行動時間		
	7/28	7/29	7/30	7/28	7/29	7/30	7/28	7/29	7/30
ガイドブック	5:00	5:25	5:00	—	—	—	—	—	—
計画	5:30	6:20	5:50	1:30	1:50	1:30	7:00	8:10	7:20
実行	4:11	6:08	5:23	1:21	2:08	0:55	5:32	8:16	6:18

実行コースタイム記録

◆１日目（累積標高差：登り約 1300m/下り 0m、歩行距離：約 9km）

本厚木（4:00）＝＝相模湖 IC（4:46）＝＝談合坂（5:00・5:20）＝＝梓川（6:48・7:02）＝＝安曇野 IC ＝＝ 一ノ沢登山口（7:40 ・ 8:07）（70 分(休憩 8 分)）―― 王滝ベンチ（9:25 ・9:32）―（30 分）―― エボシ沢（10:02・10:07）（72 分+昼食休憩 37 分）―― 胸突八丁（11:56）（79 分+休憩 24 分）―― 常念小屋(泊)（13:39 着）

◆２日目（累積標高差：登り 500m/下り 250m 歩行距離：約 7.5km）

常念小屋（6:20）（90 分+休憩 10 分）―― 常念岳（7:50・8:17）（97 分+休憩 37 分）―― 2512 ﾋﾟｰｸ（10:31・10:36）（54 分）――(お花畑)― 2592 ﾋﾟｰｸ（11:30・11:57）（昼食）―(お花畑)――（77 分+休憩 10 分）―― 蝶槍（13:24・13:36）（60 分）―― 蝶ヶ岳ヒュッテ(泊)（14:36 着）

◆３日目（累積標高差：登り 0m/下り 1200m、歩行距離：14km）

蝶ヶ岳ヒュッテ（6:25）（57 分）―― 長塀山（7:22・7:25）（170 分+休憩 15 分）―― 徳沢（10:30・10:57）（昼食）（50 分）―― 明神（11:47・11:57）（46 分）―― 上高地（12:43・14:05）（バス）==== 新島々（15:06 着）

新島々（15:25 発）（松本電鉄）====== 松本（15:35・16:58）====== 八王子（19:02 着）（ＪＲ・小田急）====== 本厚木

概要・特記事項・反省事項等

◆7/27（土）

早朝 4 時予定通り本厚木ヨーカドー前を出発。今年は、例年にない異常に早い梅雨明けで、いわゆる梅雨明け 10 日の安定期を過ぎて、もどり梅雨気味の非常に湿度が高い朝だった。早朝で車も少なく 50 分弱で相模湖インターに入る。談合坂で軽食を取り、梓川 SA で休憩をとり、一ノ沢登山口に着いたのが午前 7 時 40 分(予定より 1 時間早い)。車を降り、身支度を整えていると急に雨が降ってきた。雷も鳴っていることから、近くの小屋に入ってしばらく待機。小屋の中で準備体操を行う。雷がやんで雨も多少小降りになってきたことから 8 時 07 分に一ノ沢登山口を出発。30 分ほどすると雨もやみ、晴れ間が差してきたことから雨具を脱ぐ。

この日は土曜日で登山者も多い。ゆっくりとしたペースの我々は多くの人に道を譲ってマイペースで登る。大滝ベンチを過ぎ、一ノ沢沿いの木陰で昼食をとる。昼食後、胸突八丁を過ぎたところから急登となる。道がやせていて崩れやすくなっているので注意しながら進む。(道が崩れないような補強工事をつい最近したようで、木の板のいい香りがした) 急登の左右ところどころにお花が咲いていて、のぼりの疲れを癒してくれる。下ってくる人に稜線の様子を聞いたが残念ながら槍には雲がかかっているとのこと(聞かなければよかったかもしれない)。最終の水場で冷たい水を飲み、元気をつけて最後の登りを踏ん張る。

第一～第三ベンチ(休憩場)を過ぎ常念小屋に着いたのが 13 時 39 分。予定よりも 2 時間以上早く着いた。一ノ沢の出発が 1 時間早かったこと、当初の登り時間にかなりの余裕を持たせたことが原因と考えられる。宿泊手続きを済ませて食堂で生ビールで乾杯。常念小屋からは残念ながら槍・穂の雄大な稜線は見られなかったが、のんびり過ごすことができた。夕食はハンバーグでとてもおいしかったが、週末ということもあり 2 名／一畳という中での就寝となった。

◆7/28(日)

4 時過ぎに起床。霧雨が降っているが、日の出を見に外へ出る。幸い東の空には少し雲の切れ目があり、ほんの少しであったが太陽を拝むことができた。5 時の朝食をとり、身支度を整えて 6 時 20 分に小屋を出発。早朝の霧雨もやみ、日差しが出てきた。相変わらず槍の頂には雲がかかって見えないまま。1 時間半で常念の頂上に到着。以前の山行記録に載っていたが、やはり常念頂上までのコースタイム 60 分には無理があると思われる。

上空は青空で非常に天気が良く、梓川に沿って上高地から涸沢、槍沢方面がよく見えたが、槍～穂高の稜線上には雲がかかり雄大なパノラマを見ることはできない。大キレットの長谷川ピークはよく確認できたがその上は雲だった。(大キレットの大きさを改めて感じた) 山頂でゆっくりとくつろいだ後下りにかかる。大きな岩がゴロゴロとした下りで注意しながら進む。しばらくすると小さな鞍部があり、ここでコーヒータイムとする。本来ならば、雄大な槍・穂連峰を見ながらコーヒーをゆっくり飲みたかったが、今回は残念ながら、上部に雲がかかっている状態であった。晴天の中でコーヒーが飲めただけで良しとし、また、この次の機会に期待をかけることとした。

さらに上り下りを続けて、2592m ピークの手前でコバイケイソウの群落に会った。このあたりがお花畑であろうということで、写真を撮る。コバイケイソウだけでなく、他の多くのお花も咲いていた。2592m ピークで昼食をとった後、少し進むと今度はニッコウキスゲの群落に会った。今が一番旬のような咲き方で見事であった。こちらも、ニッコウキスゲのほかに色とりどりのお花が咲いていた。このあたりのお花畑は 7 月下旬が一番の見ごろと思われる。お花畑を過ぎるころから雨が降ってきたので雨具を着る。一時間ほどで蝶槍に到着。(雨も止んで、雨具を脱ぐ) 蝶槍からなだらかな上り下りを通り蝶ヶ岳ヒュッテに 14 時 36 分に到着。

出発が早かった分だけヒュッテに早く着いた形となった。宿泊手続きを済ませて、一休みしてから蝶が岳のピークに行く。小雨が降り、風も強くなってきて、蝶ピークで写真を撮っただけですぐに下ってくる。17 時 30 分に夕食を取り、19 時ころ就寝。蝶ヶ岳では 1 名／1 畳とかなりゆったりと出来た。

◆7/29(月)

4 時 40 分ごろ起床。雨が降っている。5 時半に朝食をとり、身支度を整えて、6 時 25 分に蝶ヶ岳ヒュッテを出発。ヒュッテまわりの稜線は風も強く視界も悪い。蝶ヶ岳ピークを過ぎてしばらくすると長塀尾根の樹林帯に入る。雨が相変わらず降っており、川のようになった道を下る。ハシゴの場所では滝となっており、沢歩きの気分になった。

靴の防水が切れ中が湿っぽくなってきた頃、徳沢園に着いた。10 時 30 分という時間帯にもかかわらず、多くのハイカーが休憩／食事をしていた。我々もここで昼食をとることとする。カレーライスがとてもおいしかった。

明神を経由して上高地バスターミナルに着いたのが 12 時 43 分。予定よりも結構早く着いたが、雨が強く雨具でビショビショとなっているので(私は登山靴の中もぐしょぐしょだった)、沢渡の温泉はあきらめ、バスターミナルの横にあるインフォメーションセンターのシャワーを浴びることにした。インフォメーションセンターの受付でコイン式シャワーがある事を初めて聞き利用した。今後も利用できると思う。

この後、路線バス・松本電鉄を使用し新島々経由で松本へ。特急あずさで八王子に 19 時 02 分に到着。八王子で解散とした。

今回は、天気はまずまずであったが、槍・穂の壮大なパノラマが見られなかったのは残念であった。また、下山してから韓国人パーティの遭難のニュースを聞いたが、3 日目の雨も雨具をしっかり装着していたため大きな困難はなかった。3000m 級の登山には真夏でも防寒装備としっかりした雨具装備、ザック内装備品の防水対策(着替え等を濡らさない)が必須ということを改めて認識させられた出来事と思う。